

在モーリシャス日本国大使館 ブリーフィング資料

2023年1月

モーリシャス基礎情報

モーリシャス共和国 1968年3月12日、英より独立。英連邦及び仏語圏国際機関に加盟

- **面積** 2,045平方キロメートル（東京都とほぼ同一）
 - ✓ 1300万年ほど前、海底火山の隆起で出来た島
 - ✓ 世界有数（約200万平方キロメートル）の排他的経済水域を有する
- **人口** 約126万人（岩手県（日本で32番目）とほぼ同じ）
 - ✓ 主にインド系（約68%）、クレオール系（約28%）、中国系（約1%）、仏系
- **言語**
 - ✓ 公用語は英語だが、日常会話にはクレオール語、フランス語を多用
- **宗教**
 - ✓ ヒンズー教（52%）、キリスト教（30%）、イスラム教（17%）、仏教等
- **軍隊を持たない**—陸海空の常備軍はない
 - ✓ 武装組織として特別機動部隊(SMF)があり、沿岸警備隊とともに国家警察に属する

モーリシャスの特長

- ・ 面積、人口ともに小さく資源もないが、政治的な安定性、ガバナンス、治安、各種経済指標、Doing Business環境はアフリカ随一
- ・ 主要な国際マーケットから離れた地理的ハンディはあるが、広い排他的経済水域(EEZ)を持ち、モノカルチャー経済からの経済構造転換に成功。社会インフラも充実
- ・ 自然災害、気候変動、国際経済の波に脆弱だが、国際場裡での発信力は強い
- ・ 環インド洋連合(IORA)、インド洋委員会(IOC)等地域国際機関の事務局が駐在



政治・経済状況

政治

- 大統領を元首（政治的権限はない）とする共和国
- 2015年に初の女性大統領（アミーナ・ギュリブーファキム）が誕生したが、2018年3月23日、金銭スキャンダルで辞任。ヴァイアブリ副大統領が大統領代行に就任した
- 2019年11月、独立後11回目の国民議会議員選挙を実施。与党連合(Alliance Morisien)が勝利しジャグナット首相が政権を維持。ルーバン前芸術文化相が新たに大統領に任命された。

経済

- 経済成長率6.1%（2022年）、インフレ率10.2%（2022年）
- 失業率9.2%（2020年）。他方、外国人労働者も入れている。
- 従来の伝統的産業（砂糖生産、繊維産業、観光等）からの産業構造転換を図り、現在、IT、国際金融分野等での外国直接投資の誘致に力を入れている。

外交政策

- わが国、米、印、中、英、仏、南ア、EU等、外交使節は17を数える
- 先進的な小島嶼国として、またAU、SADC、COMESA加盟国として、地理的にもアジアとアフリカを結ぶゲートウェイとしての価値を強調
- オーシャンエコノミー分野に力を入れ、南アやマダガスカル、セーシェル等の近隣諸国、IORA、IOCの活用による域内協力も重視（海洋安全保障等）

チャゴス諸島領有権問題

- ・ 1968年の旧英領独立時に英より、チャゴス諸島は分離され、英の施政下にとどまる。
- ・ モーリシャスは1980年台から右返還を要求。英はその主張を認めない状況が続く。
- ・ 2018年6月、「モ」は国連の場でチャゴス諸島の法的立場等につきICJの勧告的意見を求める総会決議案を提出し、圧倒的多数で採択。19年2月、ICJで勧告的意見が出た。
- ・ 2021年1月、ITLOS特別裁判部は、モルディブとの海洋境界画定事件先決的抗弁判決にて、右勧告的意見の「法的効果」を承認し、管轄権を認定した。（本案審理中。）

日本との関係：我が国はモーリシャス独立時すぐに国家承認。

- 2017年1月1日に当館開館（現在、本官7名、派遣員1名）
- 在留邦人：56名、在日モーリシャス人：80名
- 進出日本企業：商船三井・トヨタ・モーリシャス（豊田通商と当地企業の合併）、プリンセス・ツナ（ツナ缶の製造、三菱商事出資）AGMELCO（三菱エレベーターとドバイ企業の合併）・YKK現地事務所などがある。
- 最近の動き：2019年8月、モーリシャス経済開発評議会(EDB)が東京事務所を開設。

当館開館後の要人往来（※肩書はいずれも当時）

- ✓ 2017年1月18-19日 参議院ODA調査団（堀井巖議員、杉尾議員）来訪
- ✓ 2017年6月26-27日 園浦外務副大臣来訪
- ✓ 2017年7月25-26日 末松国交副大臣が「質の高いインフラ輸出促進」官民共同ミッションで来訪。15社27名が同行
- ✓ 2018年8月20-21日 佐藤外務副大臣来訪、同23-25日、逢沢日AU友好協議連会長来訪
- ✓ 2020年12月 茂木外務大臣来訪

我が国の対モーリシャスODA

モーリシャスは高中所得国であり、我が国ODAは専ら自然災害、気候変動対策等への支援、及び技術協力に限られる。2019年4月に無償の気象レーダーサイト完成後、予警報能力強化の技術協力を開始（継続中）。2019年8月に港湾警備隊用スピードボート（3億円）、2020年8月に新型コロナウイルス支援で医療機材（3億円）の無償を実施。2020年8月6日の貨物船ワカシオ号の油流出事故後は、3次に渡る緊急援助隊派遣、防災機材（6億円）と船舶監視レーダー（計12億円）の無償、300億円の借款を実施。さらに事故のフォローアップとして、技術協力案件3件（生計向上、沿岸生態系、油防除）を開始し、援助調整のJICA長期専門家を派遣（全て継続中）。2022年9月には、医療機材（5.5億円）の無償に署名。

日本とのきずな

貨物船ワカシオ号油流出事件

2020年7月26日、商船三井運輸の貨物船ワカシオ号がモーリシャス南東部沖合で座礁、約1000トンの重油が流出した。我が国は油防除作業や環境分野での支援活動、モ当局へ研修や機材供与等を実施。漁民を始めとする被害者らへの補償問題は最高裁にて係争中。

南アフリカ航空機墜落事故30周年

1987年11月28日、南アフリカ航空機295便がモーリシャスの北東約250km沖合に墜落。日本人47名を含む159名が亡くなった。東海岸ベルマールには事故現場海域を向いた慰霊塔が建立。

スポーツを通じた交流

- ✓ 空手：最大の松濤館空手をはじめいくつかの流派がある。極真会や日本空手連盟のモーリシャス支部も存在。
- ✓ その他、柔道、合気道、剣道、柔術なども活動している。
- ✓ 東京オリパラでは、陸上（パラ含む）、重量挙げ、ボクシング、水泳、柔道、に出場。静岡市がホストタウンとなったことがきっかけで、その後高校間交流やJET受入れ等スポーツ以外で交流が行われている。